

平松のウツクシマツ自生地～「美しい松」が生える山～

JR 甲西駅から南へまっすぐ行くと美松山^{びしょうざん}という山がありますが、道沿いの広場のあたりに

名のとおり松の木がたくさん生えています。ここは平松^{ひらまつ}のウツクシマツ^{じせいち}自生地といい、全国的にみても非常に珍しいところなのです。小学校3年生の授業でこの見学があるので、市民のみなさまは覚えがある方も多いのではないのでしょうか。

ウツクシマツと自生地

ウツクシマツというのはアカマツの一種ですが、普通の松とはどう違うのでしょうか。それは写真や実物を見れば一目瞭然、幹が根本で数本に分かれて広がるように伸びています。この特性は子孫に受け継がれにくく、ウツクシマツの遺伝子を持っている木でも 100 本中 3～4 本程度の割合でしか発生しません。

そんな珍しいウツクシマツが天然更新、すなわち自然の中に集団で生息している場所は日本国内でここだけなのです。大正 10 年（1921）に平松のウツクシマツ自生地は国指定の天然記念物となりました。

ちなみに、天然記念物はウツクシマツではなくこの土地の方。松そのものが珍しいのはもちろんのことですが、自然環境下でウツクシマツが生きている自生地という場所はオンリーワンであり、これからも守り伝えていくべきものなのです。



令和7年現在のシンボルツリー

ウツクシマツはいつからあった？

「東海道五十三次」の浮世絵にウツクシマツが描かれているのが確認できることから、江戸時代にはすでに人々に知れ渡っています。地元の人だけでなく、東海道を行き交う旅人にとっても心癒される名所であったようです。

さらに古い時代の言い伝えもあります。公家の
ふじわらのよりひら
 藤原 頼平が病氣療養のため平松を訪れたところ、松尾
 明神の使いを名乗る少女たちが現れます。神様に見守ら
 れるありがたさに頼平は感激し、気づけば山にある松が
 見たこともない形に変わっていた、というものです。頼
 平はこの不思議体験を天皇に報告し、確認にきた朝廷の
 使いが「**美し松**」と名付けたそうです。

頼平が松のことを報告したのはもんとく文徳天皇（850～858
 年在位）とされています。ファンタジーな伝承であり正
 式な記録とは言えませんが、もしかしたらウツクシマツ
 は 1000 年以上前からこの地に存在していたのかもしれ
 ません。

ウツクシマツ、ピンチ

天然記念物に指定された頃には約 450 本あったウツ
 クシマツですが、今は **79 本**。100 年ほどの間にずいぶ
 ん減ってしまいました。**マツクイムシ**¹による松枯れ被害と、環境の変化²により新しい松
 が育ちにくくなった、という 2 点が大きな理由です。貴重な松がこれ以上減らないよう、市
 では虫よけの薬をまいたり（最近はドローンを使っています！）落ち葉かきなどを行って環
 境を整えています。

古くから多くの人に愛されてきたウツクシマツ。この珍しい松が自生する素晴らしい自
 然をこれからも守っていききたいものです。

¹ 木の皮を食べるカミキリムシ（マツノマダラカミキ
 リ）や、その腹の中にある小さな線虫（マツノザイセンチ
 ュウ。木の内部に侵入し枯らす）など、松を荒らす害虫の
 総称。

² 松の成長には栄養が少ない土地が適する。昔の人は山
 から草などを持ち帰って燃料などに使っていたが、生活が
 便利になった現代では山に入る必要がなくなり草や落ち葉
 がほったらかしに。栄養が豊富な土壌では他の木との競争
 に負け、松が育ちにくい環境になってしまう。

ウツクシマツ自生地（職員撮影）



三代広重『東海名所改正道中記』
 ウツクシマツと平松山が描かれています

